



# やかた

大部小だより

10月特別号

「やさしく かしく たくましく」

文責：学校長

## 令和7年度全国学力・学習状況調査結果より

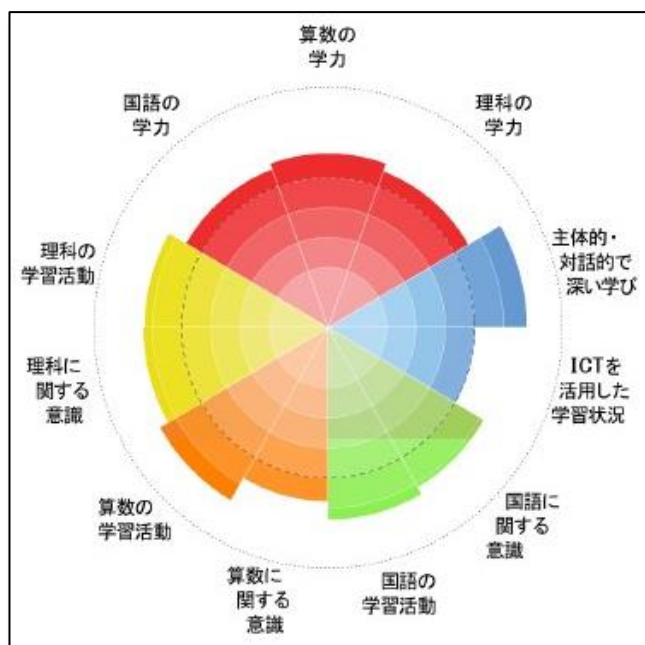
全国の小学6年生を対象に、国語・算数・理科の学力調査が4月17日（木）に、そして学習・生活状況調査が4月24日（木）に実施されました。その結果と分析の概要をお知らせいたします。

### 教科を中心とした学力・学習状況

右の資料は、「教科を中心とした学力・学習状況」の調査結果チャートです。内側の点線は全国基準を示しています。

一般的に全国基準を上回っており、良好な結果でした。特に、「教科に関する意識」（好き・得意・理解度等）や「学習活動の充実度」（理解・工夫等）、「主体的・対話的で深い学び」の領域で高い水準を示しており、本校児童の「学びに向かう力」の成長が感じられます。

反面、「ICTを活用した学習状況」については、他の領域に比べ水準が低くなっています。一人一台端末の有効な活用（デジタルとアナログの使い分け）をさらに推進していく必要があります。



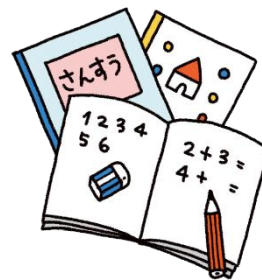
### 国語の学力

☆一般的に全国の平均正答率を上回っており、良好な結果となっております。特に「言葉の特徴や使い方」や「我が国の言語文化」の知識・技能面において、正答率が高くなっていました。おの検定や音読、読書に継続して取り組んできている成果が表れています。また、「書くこと」領域（記述式問題）での正答率も高くなっています。授業終末のふり返り等、「書くこと」を大切にされた本校の授業づくりの積み重ねが、この好結果につながっています。条件作文に意識して取り組んできたこともその要因となっていると考えられます。

★「情報の扱い方」に関する問題において正答率が低くなっていました。「情報の扱い方」では、文章や資料から情報を「取り出し」、「整理し」、情報どうしの「関係をとらえ」、情報を「発信する」力が求められています。各学年にこの学習内容が系統的に配当されていますので、今後、重点的に取り組んでいきます。同時に、読書活動をさらに充実させ、「読む力」の質的・量的な向上を目指していきます。

## 算数の学力

☆全般的に全国の平均正答率を上回っており、良好な結果でした。「知識・技能」を問う問題の正答率が高く、基礎・基本を大切にした授業やおの検定の成果が表れています。また、本校が継続して取り組んでいる「ふきだし法」によって、問題文の題意をとらえる学習活動を積み重ねているため、数量の関係性を理解したり必要な情報を抽出したりする力が身についてきており、難しいと思われる記述問題での正答率も高くなっていました。



★『通分を伴う分数のたし算』の計算の仕方を数や言葉を用いて記述する問題」「数直線上での分数を読み取る問題」での正答率が低くなっていました。「全体を1として考えたとき、3こに分けた1つ分が3分の1」という分数の基本的な捉え方が十分に身につけていないことがその要因であると考えます。分数と出会う2年生段階から、線分図や数直線を有効に活用しながら、クロームブックでの操作活動も積極的に取り入れ、分数の量感を持たせられるような学習をていねいに行っています。

## 理科の学力

☆全般的に全国の平均正答率を上回っており、良好な結果でした。理科授業の中で、「1 自然事象への働きかけ」「2 問題の把握・設定」「3 予想・仮説に設定」「4 検証計画の立案」「5 観察・実験の実施」「6 結果の処理」「7 考察の展開」「8 結論の導出」という8つの問題解決過程を大切にしながら、系統的に指導を行ってきた成果が表れています。

★「電気とじしゃく」や「もののあたたまり方」など、3・4年生で学習した内容について正答率が低くなっていました。今後は、5・6年生の学習内容と関連付けながら、既習内容について復習できる場を設定し、知識・技能の定着を図っていきます。



このような結果の背景には、高学年教科担任制（国語・算数）や専科指導（算数・理科等）による学習指導の充実、児童支援担当、スクールアシスタント、学びサポートスタッフによる個に応じたきめ細やかな学習支援が大きく関わっていると考えています。また、本校が伝統的に行っている「ノート検定」において、授業のふり返りを「書くこと」に重点をおいて指導してきたことにより、記述式問題にもしっかりと対応することができていました。このような取組の積み重ねが、今回の結果にも表れてきています。



以下の学習・学力に関する質問項目について、本校6年児童の95%以上が、肯定的な回答をしています。

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計 (%)	本校	全国
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	98	92
国語の授業の内容はよく分かりますか	98	83

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計 (%)	本校	全国
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	100	90
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	98	92
理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか	96	92

## その他の学力・学習状況（学習習慣・生活習慣等）

右の資料は、「その他の学力・学習状況」の調査結果チャートです。内側の点線は全国基準を示しています。

全般的に全国基準を上回っており、良好な結果でした。特に、「主体的な学習の調整」（自分で学び方を考え工夫する等）や「向社会性」（困っている人を助ける・いじめはいけない・役に立つ人間になりたい等）、「自己有用感」（自分にはいいところがある・先生から認められている・学校は楽しい・幸せ）で高い水準を示しており、学習面でも生活面でもウェルビーイングな状態であることが伺えます。また、生活習慣（朝食・睡眠時間・起床時刻）においても全国基準を上回っており、ご家庭のご協力をいただきながら規則正しい生活を送ることができています。



ただ、読書については、全国基準を上回っているとはいえ、他の領域に比べて低くなっています。脳の活性化のためにも、豊かな心を育むためにも、長文読解力を身につけていくためにも、読書活動を習慣化させていくことが必要です。学校読書、家庭読書のさらなる充実を図っていきます。

## 規則正しい生活習慣

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計 (%)	本校	全国
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	92	82
毎日、同じくらいの時刻に起きている	98	91
朝食を毎日食べている	96	96

☆どの項目も肯定的な回答の割合が高くなっています。睡眠時間については、小学生の望ましい睡眠時間は「9時間～11時間」と言われています。この時間をしっかりと確保するとともに、毎日同じリズムで寝ることが睡眠の質を高めることにもつながります。今後も学校と家庭が連携を取りながら、子どもたちの規則正しい生活リズムの定着を図っていきます。





## 読書等

	本校	全国
普段（月～金）、家で1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。 ※数値は「30分以上」 (%)	40	31
あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか。 ※数値は、「101冊以上」 (%)	34	31
新聞を読んでいますか ※数値は、「週に1回以上」 (%)	15	11

☆「紙の文字を読む」機会が少なくなっているのは明らかです。子どもたちの健やかな成長のためにも、本に親しむ取組を進めていきたいものです。本校「朝のいきいきタイム」での読書の活性化や「家族でど9しよ(読書)」の取組をさらに拡大し、子どもたちにとって読書がより身近なものになるよう、学校、家庭が連携を取りながら、その取組を深化・充実させていきます。

## 心の成長(向社会性・自己肯定感・ウェルビーイング等)

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計 (%)	本校	全国
自分には良いところがあると思いますか	92	87
先生は、あなたのよいところを認めてくれると思いますか	100	92
人が困っているときは、進んで助けていますか	96	94
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	98	97
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	98	96
学校に行くのは楽しいと思いますか	94	87
友達関係に満足していますか	98	92
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがどれくらいありますか ※「よくある」「ときどきある」の合計 (%)	94	93
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	91	81

☆これらの項目において、肯定的な回答の割合が高くなっています。ウェルビーイングな学校を目指して様々な取組を推進していることが、この結果にも表れています。同時に家庭や地域の中で温かく見守られ健やかに育てられていることもうかがい知れます。ただ、肯定的な回答することができなかった子どもたちがいることを見逃してはいけません。今後も、子どもたち一人ひとりに寄り添い、優しく丁寧に関わり合いながら、子どもたちの健やかな心の成長を育んでいきます。



今回の結果を見て、児童の「主体性」や「向社会性」、「自己肯定感」などの項目で肯定的回答の割合が高くなっていたことを大変うれしく思いました。本校の学校教育目標「豊かな心とたくましさを持ち、自ら考えて行動する児童の育成」やめざす児童像「やさしく、かしこく、たくましく」、めざす学校像「自分もみんなもウェルビーイングな学校」が少しずつ実現しつつあるように感じます。このような前向きさや心の安定が学習への意欲につながり、学力向上にも結びついてきています。つまり、子どもたちが本来持っている力をどんどん伸ばしていくことのできる環境が、学校、家庭、地域に整えられているということだと思います。本当にありがとうございます。

これからも、子どもたちの健やかな成長のために、ご家庭と連携を取りながら教育活動を推進していきたいと思っております。今後とも、よろしくお願ひいたします。